

平成27年度第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会

- 1 開催日時・場所 平成27年9月2日(水) 東北森林管理局 大会議室
- 2 出席者 【委員】 黒瀧委員、澤田委員、高橋委員、守屋委員、林委員、佐々木委員、安部委員

3 検討結果

スギ素材価格は、秋田では下落が続いているものの、山形、岩手、宮城は6～7月に上昇が見られた。合板用素材は、入荷制限・生産調整が続いているが、製品価格は上昇が見られる。チップ用原木については、岩手が上昇し、他は保合となっている。

北関東、関西方面でスギの素材価格が下げ止まり、住宅着工が上向きつつあり、アメリカの景気が良いということからも、現在は供給調整の必要はなく、国有林には、価格及び需給動向を注視していただくとともに、前回同様、低質材を含めた未利用材の供給に努めていただくようお願いする。

4 主な意見

1) 国産材需給

- ① 製材用素材価格は下落状態が続き、合板用は入荷規制以外のものは横ばい。製紙・発電用については、発電が稼働する10月以降はまた少し価格が強まるのではないか。
- ② A、B材はやや弱含み、C、D材は強含み。製材品やラミナはだいぶ下がっている。
- ③ 製材品の動きが悪く、素材の受入れ制限が続く。合板も3割減産、チップについては、発電用素材が比較的順調に出材されおり、丸太の置き場がどこも満杯。
- ④ 輸出国の事情で輸入合板が1～7月の前年比で2割、年間で約70万m³減少しており、国産合板での代替を期待している。
- ⑤ 針葉樹チップ価格が高騰しており、低質材の安定的な出材が必要である。
- ⑥ プレカット工場では5～7月は稼働が停滞していたが、8月以降は前年よりも良くなっている。

2) 他地域への輸送・輸出

- ① 青森では、バイオマスとチップ工場の在庫が一応満たされているため、低質材の輸出を再開する。
- ② 為替の影響もあって、中国や台湾向けのスギの細丸太やB材丸太に関する問い合わせがあったが、中国ショックで冷え込んできた感じを受けている。
- ③ 栃木方面の素材価格が値上がりしているため、宮城では、福島からの買い付けにより需要がないのに、値上がりしている。

3) その他

- ① 植林経費が少なくて済むよう、成長が早く、ある程度の比重を持つ新たな樹材種の開発に期待している。
- ② 再造林を促すため、苗木数量の確保やコンテナ苗のコストダウンについて行政の後押しが必要である。